

# 食育推進事業

## 福崎町保健センター

兵庫県福崎町では、小学生男児肥満度の県下ワースト1位をきっかけとし、町長の肝入りで、肥満予防や健康づくりを柱とした食育推進計画を策定。町を挙げた連携体制「食育推進委員会」の事務局に保健センターを据え、地方創生事業等を活用しながら大学等の協力も得て、特産品もち麦を活かした食育を推進している。保健センターでは、連携を楽しみつつ、各課等の活動に健康の視点を乗せて活動を展開し、進捗管理も行っている。

### 概要・体制

- ・第1次食育推進計画が平成23年度に策定、保健センターに食育推進係が設置されるとともに、保健センターを事務局とする「食育推進委員会」が設置(庁内担当者会議の事務局も担当)。トップダウンの取り組みなので連携はスムーズで、頻回な担当者会議も奏功し、多様な取り組みが実行に移され、カバー率を挙げている。
- ・大学での栄養価分析やマスコミによるもち麦の高い機能性のPRにより、各課の活動も拡大。浸透したことから、第2次計画では、健康増進計画と一本化し、全世代に広げた。

### 背景・課題

- ・途絶えていたもち麦の復活を図り、産地化、商品化を進め、全国的な販売も促進してきた。
- ・平成20年度に県健康増進課の報告により、小学生男児の肥満(肥満度20%以上の割合)が県下ワースト1位になった旨を把握した。
- ・もち麦の6次産業化で地方創生事業に着手。

もち麦の復活に尽力してきた町長の鶴の一声

保健センターは人事異動が少なく視点がぶれず頼りになる

トップダウンなので連携がスムーズ

### 食育推進委員会(年3回、事務局:保健センター)

町長、大学、小中学校、認定子ども園、PTA、学校給食地産地消検討会、いずみ会(食生活改善推進員)消費者の会、もち麦産地組合、商工会、農協、歯科医師会、老人クラブ、町議会、保健所等

第1次食育推進計画:  
子どもの肥満予防が中心

第2次食育推進計画:全世代向けに「健康」を前面に押し出す  
第2期健康増進計画と一体化し、全世代をターゲットに拡大

学校給食にもち麦8%入りのご飯、もち麦粉10%入りのパンをそれぞれ週1回、提供

保健センターはもち麦の栄養面の認知度を上げるため、特定健診・がん検診時にもち麦のおにぎりやもち麦茶を提供

兵庫県立大学は学生と連携した商品開発、学生考案レシピ等で産業活性化を支援

神戸医療福祉大学は、学生によるメニューコンテスト、入賞メニューの学食での提供、もち麦グルメガイドの栄養価計算等の支援などのほか、小学生への食育運動教室で保健センターと連携

担当者らみんなで「食育カルタ、食育サンパをつくろう」と楽しく提案

### 地方創生事業等による産業振興

もち麦の6次産業化により農業・産業の黒字化を目指す

### 効果

■肥満度20%以上の男児の出現率が12.0%から7.0%に改善。学童全体でも9.5%から6.2%に改善。

■農家も子どもたちのために頑張るようになった上、通年の仕事ができ、農作業が介護予防に。要介護認定率も17~18%を維持。

■需要が高まり、障害者の就労継続支援B型の事業所に作業を依頼するなど、農福連携に発展

■各課を経由し、学校、農家、事業所等に幅広く関わられて、働き盛り世代とも接点を持った。

### 保健センターの連携機能・役割

- ・子どもの肥満の多さを町長に説明した。
- ・第1次食育推進計画を策定し、食育推進委員会と庁内担当者会議の事務局を保健センターが担う。
- ・農業・産業振興が柱のもち麦に健康づくりを追加。
- ・年3回の食育推進委員会と頻回な担当者会議で顔の見える関係を構築し、各課の取り組みをつないだ上、健康の視点を乗せ、カバー率を広げる。
- ・子ども中心だった1次計画から、2次計画では全世代をターゲットに拡大し健康増進計画と一本化。同計画より、歯科医師会等の団体を委員に加える。
- ・神戸医療福祉大学と連携し、小学校での運動教室を実施。食育に運動を加える。
- ・もち麦関連作業が増え、障害者の就労継続支援B型事業所へ作業を依頼し、農福連携にも発展。
- ・保健センターでは孤食予防、共食促進の「健康食堂」を開始。食育で関わってきた担い手にすべての人を受け入れる居場所をつくってほしいと期待。

### 健康課題(子どもの肥満)

県健康増進課・保健所より、子ども(男児)の肥満度20%以上の割合が県下ワースト1位となった旨報告を受ける。

### 農業等の振興

古くに栽培され一旦途切れたもち麦を復活、産地化、特産品化。商工会や農協、第三セクター等による試作、改良、商品化。生産組合や加工・販売拠点の整備。大学も参画したもち麦産地協議会の運営など。

### 効果・成果

- ・朝食を食べる人の割合が増加(88.0%→90.2%)するなど生活習慣の改善につながった。
- ・家庭でもち麦を使った料理をした人は51.4%→61.8%に上昇した。
- ・小学生男児の肥満度20%以上の割合は12%→7%に改善し、学童全体でも改善した。
- ・給食に作物を納める農家の意識が高まり、通年の仕事も増えた結果、農作業そのものが介護予防的な機能を持つようになった。因果は不明だが、要介護認定率も維持されている。
- ・部局横断の連携で得た情報を互いに伝え合い、楽しく実行に移せるようになった。

### ポイント

- 子どもの肥満の多さを逆にとった、●町長のトップダウン、●農業・産業振興に健康の視点を追加、●人事異動の少ない保健センターだからこそ連携先から頼られる、●連携先を通し接点の少ない層とつながり、カバー率向上、●連携先すべてが財産

# 食育推進事業

## 福崎町保健センター(連携体制構築に向けたプロセス)



A 俯瞰的立場の職員

### 俯瞰的立場の職員の存在

・平成20年度、兵庫県健康増進課の統計により、福崎町の男児の肥満度20%以上の割合が県下市町村でワースト1位であることが判明。



0 位置について

#### 位置についてヨーイ

・町として、途絶えていた「もち麦」を復活させ特産品として推奨していた。  
・商工会や農協等が試作、改良、商品化、兵庫県立大学と連携したもち麦産地振興協議会等が企画立案等を担うなど、**産業振興が中心**だった。



2 根拠を集める

#### 根拠を集める

・大学の協力等でもち麦は精白米より、水溶性食物繊維βグルカンが約30倍、鉄分が約3倍、カルシウムが約8倍高い等の**機能性を把握**。



5 ツールをつくる

#### ツールをつくる

・商工会等がもち麦料理提供店舗マップ等を作成。  
・栄養価入りバージョンも作成。



6 育てる、促す

#### 育てる、促す

・第2次食育推進計画で全世代を対象とし、**健康増進計画と一体化**、健康を前面に。  
・地方創生事業等でもち麦の6次産業化の促進をする際、大学の協力も強化され、小学生への出前型運動教室もスタート。  
・医師会なども委員に加入してもらった。



0 位置について



1 風をつかむ

#### 風をつかむ

・県の統計で**肥満児の多さがワースト1位**になった。  
・そこで、町長肝入りで、子どもたちの肥満予防と規則正しい食習慣の確立、成人のメタボ対策を柱とした第1次食育推進計画を策定。保健センターに食育推進係が新設。



2 根拠を集める



3 仲間をつくる

#### 協議組織をつくる

・食育推進計画にもとづき、食育推進委員会と庁内担当者会議の事務局を保健センターが担当。  
・部局横断の担当者会議は頻繁に実施。トップダウンなので連携はスムーズ。「各課が顔を揃える会議は、総合計画の策定時しかなかったが、以降は頻繁にあり、風通しが良くなり、仲間が増えた」と保健センターは感じている。  
・人事異動が少ない保健センターが事務局となり、視点がぶれないとして頼りにされるようになった。



4 協議組織をつくる



5 ツールをつくる



6 育てる、促す



7 評価・フィードバック

#### 評価・フィードバックする

・もち麦を特産品と認知する割合が99.3%になり、もち麦を使った料理を家庭でつくった割合は51.4%から61.8%に上昇した。  
・第3セクターの売上げが年1億5000万円に。  
・連携体制で各方面からアプローチすべく町を挙げて活動した結果、肥満度20%以上の男児の出現率が12.0%(平成21年度)→7.0%(平成27%)へ改善し、学童全体でも9.5%→6.2%へと改善した。



B 人材育成の意識

### 人材育成の意識

・連携で各課と関係が深まった結果、アイデアを出せば、すぐに合意でき、楽しく仕事ができる関係が構築できた。  
・さまざまなアイデアに賛同し、協力してくれるようになり、「連携先はすべて町の財産」となっている。